

森と共に生きるまち宍粟の

みどりじまん新聞



Vol. 11

令和5年2月号



バックナンバーは
こちら

木育 過去ニュース

2020年9月8日
木製玩具づくりワークショップ
園等での木育の取組がスタート



「森と共に生きる」ということ

研究者 河原 歩夢

近年、世界中で地球温暖化などの影響により様々な異常気象が発生しており、日本各地でも大雨により川の水が溢れるなど、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。森林はこのような災害の防止に大きく関わっており、森林について学び、災害を少しでも減らしたいという思いから、私は森林大学校に入学しました。また、私は農業高校の出身で、学校の農場や祖父母の畑が度々アライグマやイノシシにより被害を受けていたことから、獣害の防止にも興味を持っています。

今回は、私が森林大学校の講義等から学んだことを、森林と私たちの関わりを中心に紹介します。

●森林が持つ機能

入学後、林業の歴史や現在の森林の状況、問題点などを学ぶ森林林業概論の講義を受け、森林が人々に与える影響について興味を持ちました。日本は自然に恵まれた豊かな国で、国土の7割

を占める森林は、私たちに多くの恩恵をもたらしています【図1】。



【図1】森林が持つ機能の一例

森林の管理に欠かせない “チェーンソー”の手入れ

木を伐り倒すために使うチェーンソーは、森林の管理に必要不可欠な機械であり、使用後は手入れを行います。

切れ味が悪くなったチェーンソーの刃を研ぐことを「目立て」と言い、正確な目立てができていると、木材にしっかりと刃が食い込むことで粗い木くずが出るため、作業がうまくできているかの目安になります。



【写真1】実習の様子



【写真2】チェーンソーの複雑な内部構造



【図2】林業従事者数と高齢者比率の推移
出典：総務省「国勢調査」・林野庁「森林・林業白書」

所有者が分からない森林や境界があいまいな森林が増え、問題になっています。

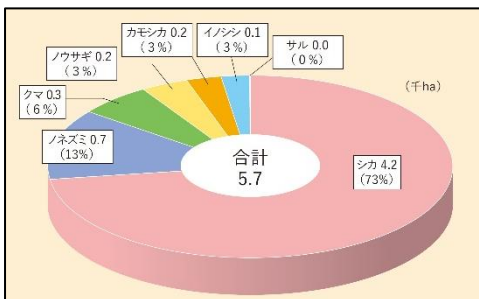
「みどりじまん新聞」は

“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

●野生動物との共生

森林の管理は、木を伐り倒したり、植樹したりすることだけではありません。森林内では、野生動物によって樹木やその他植物が食い荒らされるなどの食害が起きており【写真3】、国の調査によると、シカやクマ、イノシシなどの野生動物による森林等の被害面積は、令和2年度で5,700ヘクタール（東京ドーム1,200個分以上）にもなっています

【図3】



【図3】 主要な野生鳥獣による森林被害面積
出典：林野庁「森林・林業白書」



【写真3】 シカの食害で皮がはがれたスギ林
出典：林野庁 HP (滋賀県提供分)

森林大学の講義では、生えている樹木の種類や特徴から山や土の状態だけでなく、動物の生息状況も分かることを学びました。

例えば、アセビ【写真4】という樹木は、馬が食べると麻痺する（酔って動けなくなる）ことから、

漢字で「馬酔木」と書くようになったと言われている。葉や茎などに毒を持っています。そのため、山で大量にアセビが集まって育っている場合は、シカなどの野生動物が食べず



【写真4】 アセビ

森林大学校「樹木学実習」

樹木学実習では、県立国見の森公園や赤西国有林などに行き、樹木の枝や葉を採取します。色や形、葉の大きさをよく観察すると微妙に違っていて、樹木の素晴らしさ、面白さを感じることができます。

実習で採取した樹木の枝や葉を乾燥させて作った植物標本は、毎年夏に開催されている森林大学校オープンキャンパスで展示していますので、ぜひ見に来てください。



【写真6】 植物の葉の採取



【写真7】 植物標本づくり

にそれだけを残している可能性が高いと言えます。つまり、樹木等が一種類しか残っていない箇所は、野生動物の食害が激しい箇所であると考えられるのです。

野生動物による食害を防ぐためには、対象となる野生動物の種類や被害の状況によって様々な対策があります。例えば、動物が侵入しないように防護柵（ネット）【写真5】を張ったり、動物が嫌がる匂いの薬を塗ったりするほか、木が傷つかないようにテープを貼ったり、小さな苗木にはチューブを被せたりする方法があります。

森林を管理していくうえで、野生動物との共生はこれからの大きな課題です。



【写真5】 防護柵（ネット）
出典：林野庁 HP (滋賀県提供分)

●最後に

森林大学の講義・実習を通じて森林や山について専門的に学び関わっていく中で、担い手の不足や野生動物による食害など林業が抱える課題が少しずつ分かってきました。

森林は私たちの生活を守り、豊かにしてくれませんが、それは人による適正な管理があつてこそ成り立つものです。森林の環境を守り、林業を発展させるため、私たちは木材を余すことなく有効活用したり、森林について学び理解を深めたりするなど、森林や木の素晴らしさ、木の文化を将来に伝えるいかなければなりません。

今回紹介した林業の課題はほんの一部ですが、これらの課題を解決するために林業に携わっていくことが、森林・林業を学ぶ自分たちの使命であり、日本の林業の未来には大事なことでと考えています。

今回の記事を読んで林業には様々な可能性や魅力があるということを知った人、知ってもらい少しでも林業に関わってみたいと思っていただける方がいれば幸いです。



兵庫県立森林大学校
Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる
人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校 HP



兵庫県は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組めます

